



「多久から発信！SDGs⑮」

「わたしたちにできること」

(東原彦含西溪校学校運営協議会 委員 川原田知章)

私は佐賀ユネスコ協会に長年所属し、ESD(持続可能な開発のための教育)やSDGsに取り組み、発展途上国や被災地の支援を行っています。昨年12月3日開催の西溪コミュニティスクールフェスタにおいて、児童生徒のみなさんに話す機会をいただき「SDGsってなんでしょう」私たちにできること」と題し「私たちが生活の中でできる次の6つのこと」について話をしました。

1. 身の回りのものを大切にすること
2. 『もったいない』をなくす
3. 友だちと遊ぶ
4. 『お手伝い』をする
5. みんなに優しくする
6. 『手洗い・うがい』をする

この1から6のことを普段の生活の中で、ぜひ意識して実践してもらいたいと思います。

また、佐賀ユネスコ協会が長年取り組んできた「貧困による負の連鎖を断ち切る」ための活動も紹介しました。貧困による負の連鎖を止めるためには、すべての子どもたちに「教育」の機会を与えることが大切です。そのため身近な活動として『書き損じハガキ』運動があります。『書き損じハガキ』を佐賀ユネスコ協会に寄付することで「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「全ての人の健康と福祉を」などのSDGs活動に役立てることが出来ます。みなさんも『書き損じハガキ』運動にご協力をお願いします。



▲貧困による負の連鎖のイメージ

連載

野の仏ギャラリー④

大日如来坐像

西多久町大字板屋

大日如来は、石祠の正面奥壁に浮き彫りにされ、蓮華座に坐っています。頭上の宝冠は筒状で、文様が施され、上部は山形になっています。額に白毫の浅い線があります。両手首に円環状の飾り(釧)を着けています。手は、左人差し指を伸ばし、それを右手で握る智拳印を結んでいます。坐像や台座に、制作当初の鋭利な加工の跡が見られます。坐像の隅や大日如来の文字に暗緑色の顔料が残存しています。

銘「大日如来」明治四十五年七月十二日建立



○如来は、真理に到達し修行を完成した者を称します。
○大日如来は、真言宗などの本尊です。
○白毫は仏にみられる白い毛で、光明を放ちます。
○智拳印の右手は仏、左手は衆生を表わすとされます。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆いつまでも涙を答えにしたいくない
笑顔に答えにしたいよずつと
野崎 隆幸

◆柿暖簾陽ざし差し込む縁側で
仲睦まじく老夫婦の見ゆ
梶原恵美子

◆都大路駆けぬけ二位でゴールせし
教え子に冷たきマスコミ思いし昔
尾形 節子

◆一日の仕事忘れずやり通し
心たらいって眠りにつくぬ
浦野 嘉恵

◆力強いエイサー太鼓の躍動感
老いし吾れの心ゆさぶる
川浪 信子

◆ざわざわと鳥の去りたる
木守柿 中嶋 清子

◆ふとよぎる吾子との暮し冬落暉
富樫 明美

◆軒下の風に揺らるる干大根
おおやはな 本村 則子

◆初氷色あるものを閉ち込めて
武富 律子

◆元旦の何でもできるカレンダー
西山 残月

◆首脳部の意見の一致リスクです
松下 修

◆初詣柏手の音響き合う
田代えみこ

◆戦しか知らぬ子がいるウクライナ
大谷 和

◆母笑顔セピア色した写真でも
田中 正春

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》